次第

■１.開会

■２.議題

議題（１）文化振興計画策定庁内作業部会の意見について

資料１の説明

〇庁内連絡会議は、計画策定にあたり、市庁内の関係部課長 20 名からなる市役所内部の組織。

〇今回開催の作業部会は、連絡会議に所属する課の実務担当者 12 名からなる組織。

〇作業部会は 12 月 22 日に第１回会議を開催し、その時に出た主な意見をまとめたもの。

〇表現の仕方について修正箇所あり。

・総合計画も今見直しをしており、今年度に完成する予定。子育て世代に重点をあてようと進めている。

・総合計画の市民懇話会でも情報発信について関心が高く、文化振興計画にも IT 活用について記載すべきとの意見があり。

・情報発信については、作業部会に参加した課も市庁内のほぼ全ての課が苦慮していて、市のツールだけでは限界があるため、中には大阪府のアプリがたまたま事業にマッチし、活用できた事例があり、他に活用できる方法がないか模索しているという意見もでた。

・総合計画や生涯学習課、図書館など、庁内にある他の分野の計画との整合性に気をつけた方がよいなどの意見もあり。

議題（２）（仮称）文化　花　咲かそう推進プラン―第２期岸和田市文化振興計画たたき案について

資料の修正

P11　「文化振興計画の周知について」は計画の内容とは関係ないため削除

P18　「日常の練習や創作など、活動場所として主に利用している施設について」結果のグラフが抜けているので、別紙１を添付

P29　施策体系のみだしの番号を３から４に修正

事前送付資料「たたき案」

次の文化振興計画の名称を、仮称とし、たたき案を作成。

大まかな流れと現在の文化振興計画からの変更点について説明。

基本的に大きな変更はないが、同じ内容のものを集約、表現の変更など修正。修正箇所を説明。

資料２の説明

変更箇所を網掛けにした。

45ページ以降は資料として、審議会委員の名簿、関係会議の経過、関連する法律等を添付する予定。

（委　員）第１章の１『「文化」の意義と役割』は、もっと魅力的な文章で、文化というものはとても魅力的なのだという事が記載されていると、興味を持ってもらえると思う。

（委　員）他市の委員会にもよく記載されているが、文化とは何か、また岸和田における文化位置みたいなものをもう少し具体的に記載してはどうか。子ども達は音楽にもあまり関心がない、関心があってもそれが自分の身についていない、また、劇を見たことがない子が多い。

「音楽を聴く、歌う、踊る、描く」と書いてあるが、抽象的ではないか。

郷土を題材にした音楽劇「桃と赤鬼」を演じても、郷土の事をやっていると思っていない。自分たちがその文化を受け継いでいかなければならない、受け継いでいこうという意欲がみえない。具体的で、子ども達にもわかりやすい、子ども達が見てもわかる言葉で表記していただきたい。

（委　員）前回、配られた資料を含めてよくできていると思うが、何を言いたいのか、何がしたいのかわかりにくい。市民全員が一丸となるようなキーワードを１つあげて、プランを立てた方が現実的だと思う。今の施策も国の施策も、キーワードは子どもだと思う。子どもをキーワードにして、岸和田の伝統と新しい文化の創造という１つのプランとして、こども・だんじりまつりというのはどうだろうか。こどもというキーワードで１つに集めるというのもどうか。

（委　員）『「文化」の意義、役割』の項目で『「文化」とは、最も広く捉えると、衣食住をはじめとする暮らしや価値観などの生活に関わるすべてのことを意味します。』の１行半を削除する方が理解しやすい。

（事務局）意見を参考に、冒頭の文章を再考。キーワードも盛り込みたい。

指摘のあった何がやりたいのか見えないというところも修正していく。

（会　長）誰が読んでもこれが岸和田のプランなのだという事がわかるようにすると、もっと魅力的になって、２ページ以降も読んでみようかなと、思えるようになるのではないか。

（委　員）子どもが郷土に興味を持つようになることが大切。

（委　員）他の自治体では河川敷に降りる壁面に絵などを描いて、子ども達が自然に歴史に興味を持たせるように工夫したり、古墳公園を子ども達の学習の場として整備し、郷土の良いところがわかるようになっている。岸和田はだんじりを一番に出すが、文化の中心とは何かと思う。

（会　長）高槻市の古墳の施設では、子ども達の勾玉作り講座教室などがあり、自然と歴史に興味を持つようになっていた。

（委　員）暮らしがあるということは文化があるということ。岸和田は文化が低いと言われるが、「岸和田には文化も芸術も歴史もたくさんある」ということを子ども達にアピールして欲しい。

（事務局）たたき案のP7に岸和田の文化の背景を記載しているため、どこまでの内容を１ページ目の冒頭

に記載するか、全体のバランスを見ながら事務局で案を出したい。

（副会長）冒頭は、多くの人が読むと思われるので、少し格調高く、かつ、身近なこととして表現する事は大事。

文化振興条例ができたのが平成 25 年。「文化　花　咲かそう推進プラン」の１回目が２年後。この岸和田の文化条例というのは、子どもを非常に重要視した条例という事が、他都市の条例と違うところ。これは岸和田として自慢して良いのではないか。ただ子どもに対して、より具体的に出していくのが岸和田市の務めと思う。岸和田を参考にする他市も出たらいいと思う。

文化振興条例の中で前書きのところは簡潔に書かれているので、いいものはいいものとして、表現も含めて引用し、活かせるところはそのまま引用しても良いと思う。

現状の問題として、コロナと文化のことについて、令和４年、５年の現実的な問題としてとりあげても良いが、岸和田は子どもを第一に考えて条例が作られているのだ、というところは意識して欲しい。

（事務局）７ページ「第２章　岸和田市における文化の現状と課題」に関して、ご意見をいただきたい。

（会　長）岸和田市は子どもの数は減っているのか。

（委　員）人口の推移を見ると、30 代、40 代の子どもを持つ世代が突出して転居し、子どもの数が減っている。

（委　員）岸和田は誇れること、発信できることが少ないのか、人口がこの 10 年ほどで１万人以上減り、世帯数が増えて１世帯平均２人となり、活力がだんだんなくなってきている。

岸和田は市制 100 年になるが、活力が弱まってきている。「城とだんじりのまち」、と言われるが青年団の人数が減り、その町だけでは曳けなくなり、応援を頼んでいる状態。だんじり人気が下がってきている。

その中で、文化活動団体の組織は高齢化が進んで、会員も減少し、後継者がいない。言葉だけでなく、具体性があるほうがいいのではないか。きれいな冊子ができても文化が結果として実っていくのか。

（会　長）庁内の各部署でも情報発信をどうしたら良いのかと、共通の悩みの種となっている。「広報きしわだ」が広報の手段としては一番多いのか。

（委　員）反響があるのは「広報きしわだ」。

（委　員）若者は、広報誌をあまり見ていない。

（事務局）市の事業のひとつの周知として、やはり一番は広報きしわだ。子どもに関わる事、それ以外のテーマ、各課で事業数はかなりやっているが、残念ながら、どの課も人が来ない事が多い。

マドカホールで言えば、広報誌の次にチラシ、ポスターが主となり、紙媒体による周知として、他の市内公共施設にも置いているが、すでに限界がきていると常々感じている。しかしながら、他にどんな手段をとったら良いのか、ＳＮＳが非常に身近になってきているが、若い世代は、自

分の欲しい情報のみ入手するので、一方的な発信のみになっているのではないか、という意見があった。

情報を発信したいが、逆に情報がありすぎて、情報の受け手が取捨選択していると感じている。しかし発信しなければ情報は届かない。いろんな団体で同じように悩まれているようだ。

今のところ、広報・チラシ・ポスターなどの紙媒体が主流、市でもツイッター、インスタグラムをしているが、事業が多すぎて載せきれないので、かなりトピックになるようなものだけを広報担当課が発信している状況。

（委　員）庁内の各課は横につながりがない。どこの課もネガティブな意見ばかり載っている。隣の課がやっている事さえ知らない状況で、市民はもっと知らない。一番欲しい情報は「いつどこで、何をしているか。」という事。それを一覧表にしているものがひとつもない。市制 100 周年記念事業が盛り上がらないのは、イベント情報を知らないまま終わった人が多かったからだと思う。市役所の中で情報共有し発信する場所がないのか、自分の課の事が終わったら他の課の事は知らないで良いのか。紙媒体はたくさん作るが、市民の手には簡単には届かない。

（会　長）確かに市民からみたら、市がやっているということが分かっても、どこの課がやっているか、そこまで考えない。複数課で、情報を共有して一覧にするという試みを今までにしたことがあるか。

（事務局）今回の 100 周年記念事業に関して、企画課が担当・窓口となって、ホームページに掲載している。一覧でダウンロードはできるが、ホームページまで見にいく人は少ないのだろうか。

紙媒体の広報を見ない世代が出てくる中で、どう情報を伝えていくか、伝えていく大切さや手段も含め課題とし、重点目標の中のひとつとした。

（委　員）情報誌を作って人が集まりそうな所に置かせてもらうが、一冊減っている程度。本当は手渡しで渡せるような機会があったらいいのにと思っている。情報誌を作って、活動していることを知ってもらえるだけで良いのだという会員もいる。イベントのチラシは期限があるので、どうにかしてお知らせしたいが良い方法はないか。

（委　員）情報誌はお金もかかるし捨てられるのは悲しい。紙は紙の良さがあるので、情報発信する時は、手元に残る紙と SNS や LINE、インスタグラムなども意欲的に意識的に使っている。

だんじりの曳き手が減ってきていると実際に感じる。まず町会に加入する家が減ってきている。必要な情報は自分から取りにいかないといけない。回覧板を使って情報を発信したことがあるが、気付かれずに次に回されている事も多い。情報は単にＳＮＳなどに上げるだけではなかなか届かない。「＃（ハッシュタグ）」を使い拡散した情報が入ってくるということはかなりある。ＳＮＳ、インスタなどを使って呼び掛けると反響がある。情報が欲しい人、ソーシャルネットワークを利用している人は、自分が興味のものを登録している。そういったことも紙と一緒に使うと良いと思う。

（会　長）紙があると安心してしまうが、情報が溢れ過ぎているような時代なので、非常に難しい部分があ

るとは思う。子ども達向けの情報は、子どもが学校から案内の紙をもらうとわかるが、それ以外は自分で情報を取りにいけないので、結局、親が情報を取ることになる。ということは、その親世代の方に、どんな情報を発信し、どの手段が一番良いかを、調査・聞き取りをしてみるのも一つの方法だと思う。実際に子育てしている方々に合わせた発信の仕方を組み立てていってもよいのではないか。

（委　員）子育て世代の人たちに伝わるように、デザインを変えていったらよいのではないか。「広報きしわだ」が昔に比べて良くなったと思う。しかし、30 代の人が取るかといえば少し難しい。

神戸市は広報のデザインがとてもかわいい。今、漁師町の塩屋では、家をリノベーションして可愛くてお洒落なカフェにする人が多い。町がそうしたわけではないが、リノベしやすい環境で、町全体がお洒落になり、週末になるとたくさんの人が訪れて店が繁盛している。若い人たちが住みやすく、塩屋を好きになり、起業したりして自然に町がお洒落になり、そのお店が発信するから、塩屋にたくさんの人が遊びに来る。という状況が起きている。

資料２、基本目標Ⅲ―７芸術家の活動拠点の創出の検討で、岸和田はアーティストが住みにくいのが現状。絵画教室の先生を募集するが岸和田からは来ない。アーティストが流出していっている。広報誌もデザインを可愛くしたり、岸和田に住んでいるインスタグラマーで有名な人に、岸和田を有料で発信してもらうとか、また発信してくれた時に何か特典があるとか考えていかなければならない。

（会　長）人形劇とか児童演劇などでよくあるのが、パンフレットのどこかに切り取って折っていくと立体物ができる。お芝居が終わってから家でこれを切って遊んでください。というのがある。そういったものが広報誌についていたら、少なくとも手に取るのではないか。

（委　員）うちの子は、ある情報誌を塗り絵がついているから必ず持って帰って来る、塗り絵をしたいからだが、確かにそういう手段もある。

（委　員）岸和田は良い町、住んでみようと思ってもらえるような町にするには、やはり子育てするのに良い町にならないといけない。今は子育てしにくいから岸和田から出て行こうとする。教育の問題もあると思う。資料の 24 ページの下の表「児童・生徒に対して芸術分野を鑑賞させたり、体験させることへの意義や必要性を感じますか」というアンケートで、幼稚園や保育所は「たいへん必要である」と回答しているが、中学校になると減っている。子ども達はお芝居を見たり、自分たちでお芝居をしたりする事を喜ぶと思う。中学生という大人にだんだん近づいていく年齢に、そういう世界をたくさん作ってあげたほうが良いと思う。例えば、学校で映画鑑賞をする、お芝居をホールで行うなどは、あまりしていないと思う、岸和田に美術館・博物館がないことが非常に残念。

（委　員）子どもが持ち帰るチラシが、唯一、自分の手で持って帰れる広告媒体。それなのに岸和田の学校は配ってくれない。

（委　員）私が子育て世代の頃、子どもを連れてどこに遊びに連れて行こうか、情報は広報が頼りだった。広報や紙媒体が手に届かない他市の人には、SNS で発信することで参加者が増える。SNS は影響が大きい。また、広報は町会に入っている人だけに配られている。

（会　長）町会に入らないと広報が配られない、という自治体が増えているのではないか。

（委　員）駅などに置いているのでそれは取ることができる。町が市から委託を受けて、町会加入者に配っている。少年少女合唱団は、学校で募集チラシを対象の学年に持って帰ってもらう。公演、定期演奏会の時は校園長会にお願いしに行って配布してもらっている。それが募集の手段。ホームページを見て応募する人もいる。

（事務局）教育委員会を通じてすべての子どもに配布したいという団体の希望はあるが、学校として受け付けない。大きな理由として、たくさんの配布物があると一番伝えたい学校の情報が埋もれてしまうから。もう一つは、有料公演のチラシを学校が配布すると、行かなければならないのか、買えという事か、と、保護者のクレームが多くなった。少年少女合唱団の場合は、団の公演や募集に関しては、市が育成している団体ということで、配布・周知に協力してもらっている。

平成 14 年にできたマドカドラマスクールは、子どもの演劇を経験する市の育成団体だが、合唱よりも演劇をする子どもが激減。しかも一定年齢がきたら卒団するので、年齢によってばらつきがある。いかに子ども達に知らせて興味を持ってもらい、入ってもらえるか。その為に合唱団と同じように、毎年ではないが教育委員会にスクール生募集のチラシ配布のお願いする事もある。

SNS などを活用する時代にきている。次の計画に当たっては、どうしても SNS などが紙媒体よりも主流になっている、情報発信というものをどうしていくのか。SNS などをうまく活用し、相手に訴える必要性がでてくるが、発信の仕方そのものにハードルがあるのではないか。写真の撮り方、デザインや文字をどう選ぶか難しい。若い世代より少し上の世代の方々にノウハウを教えるような講習などができたらいいと感じるところがある。このような視点でご意見などをいただきたい。

（委　員）インスタグラマーなどの若い人から、インスタグラムを使っていない上の世代の人に対する講習をしたらいいと思う。関西にいる人気のインスタグラマーを雇って、写真の撮り方とか、どのようなものが好感を得るのか、流行りなどを教えてもらえば、それは上の世代だけでなくフォロワーの人がたくさんいて影響があるので、考える機会にもなる。他の地域の人を呼ぶことにもなり、すごく効果の高い方法になると思う。

（会　長）SNS を使って発信したいと思っても方法がわからない、思案している間に時間が経過してしまうことのないように、講座・講習会などの開催はとても良い方法だと思う。

（委　員）自泉会館は、Facebook とホームページを持っている。苦心していくうちにインスタグラムも見ることができるようになった。若者の行動を知り、子ども達と話をする時はユーチューブの話題が欠かせない。ユーチューブには多岐にわたる情報がある。せめて文化活動をする人達が情報を

広げようと思うならば、使い方やマナーなど教えてもらえるような講座が開かれたらと思う。

（会　長）重点目標の情報の収集、発信でSNSやユーチューブのような動画というのもどうか。自治体でなくても、関連団体が町のPRを作ってアップしている。地元の人も知らない情報や映像に、興味をひかれて出掛けて行く例もある。

（委　員）保護者がどんなSNSを欲しているのかというのと同時に、子ども達の為につくるなら、子ども達が、SNS をどのようなことに使い、どんなことに興味を示して何を見ているのか、子ども達のニーズがどんなところにあるのか、保護者と合わせて聞き取りできたら、いろんなことが見えてきて良いと思う。

（事務局）子ども達のニーズなどの調査はしたことがなかった。調査できたら良いと思う。

（副会長）推進プランの第4章の項目にも子どもがでてくる。30ページ施策の推進にも「創造する力と生きる力　感性豊かな子どもを育む」「就学前の子どもたちが文化に触れる機会の重点的な創出」「子ども達に対する文化プログラムの充実」など、数多く子どもが出てくる。この「文化　花　咲かそう推進プラン」は、理念だけ文章化されて、市議会などで説明だけで済んでしまうのか、これを一歩進めようと議会で進めることになるのか、岸和田市自体が、これを具体化するためにどうするのかというのは、岸和田市として予算措置もして、芸術鑑賞の体験教育を具体的に進めていかなければならない。理念だけ述べているのではいけない。岸和田市がどれだけ本気で予算措置もして、子ども達のために何をするのか、SNS をどのようなことに使い、どんなことに興味を示して何を見ているのか、子ども達のニーズがどんなところにあるのか、というところまでいかないと、市民は向いてこないのではないか。そこまで、書きたいと思うがどうでしょうか。

（事務局）プラン第２期というところで、策定の際には、当然、市議会で説明して、その上でパブリックコメントを出す。予算がどこまで確保できるか、岸和田市が財政難というところでどう進めていくかだと思う。人口の減少もあり、施設そのもの見直しというところを議論している問題もある。子どもに関する事は、各課がいろんな事業を行っていて、ここに紐づけされるというところでもある。ただ、プランを実現するために、予算要求をしていく事が一番大事と思う。どれぐらいの子どもにどういうものを与えるのか、どういったものを見てもらいたいのか、この辺りは市議会に限らず、庁内の理解は、当課が取り組むことであると思う。

（委　員）携帯のアプリを活用したスタンプラリーのような企画があって、すごく良い取り組みだと思う。子どもが家にいるのではなく、携帯を持ってどこか出かけて行って、スタンプラリー形式に牛滝山などに行き、QRコードとか読み取るとキャラクターが出てきて、歴史を説明したり、音楽が流れるなど、各所で郷土の歴史などに触れることができる。導入として興味付けのひとつとして、携帯のアプリを活用したスタンプラリーなどをするのもいいのではないか。モニュメントを１つ１つそこに作っていくより、予算も少なくてすむのではないかと思う。

（事務局）観光課が取り組んでいる事業で、単にポイント目的だけではなく、普段行かないところに足を運

んでもらう、歩く事で健康にもよいという事を主眼においた事業であった。

（会　長）今の話を聞いて、例えば「文化事業のスタンプラリー」というのも良いのではないか。一覧表ができるのであれば、その中から１０か所行ったら記念品がもらえるなど、どこに行ったらよいのかわからないという人にも目的ができるのではないか、

（委　員）和泉市で文化事業に参加して、地元の生産品をもらえる企画があった。

（事務局）SNS とかユーチューブの大事なことは、ここだけに収まらないことが根底にある。実際に自分の目で見て、体験することに勝るものはない。ただ、そこに来てもらうための手段のひとつとして、色々な事を駆使しないと来てくれないというところを、なんとか打破していきたい。「文化花　咲かそう推進プラン」を推進していくにあたって、インスタグラム、SNS などを当課が受け持って発信をしていく工夫が必要であろう。ただ、あまりにも膨大な事務量により持続できなければ意味がないので、このあたりをいかにコンパクトにスムーズに行うかというところを模索している。

（会　長）案に反映させていただけると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

議題の３　今後の文化施設のあり方について

岸和田市では、行財政の構造改革を進めるために、新行財政改革プランを策定中。

取組３　　公共施設の「機能」と「量」の最適化」の章について説明。

取組３―３　文化施設のあり方の見直しについて説明。

■３.その他

今年度の事業について報告。その他の事業についてチラシを配布。

■４.閉会